

元JICAヨルダン事務所次長  
(現アジア第一部東南アジア第二チーム長)

落合 直之  
Ochiai Naoyuki

## 実践! ★★★★★ 人間の安全保障

### 「地方に潜む格差問題に 目を向けてほしい」

経済成長のひずみがもたらした社会的・経済的格差が深刻化するヨルダン。成長から取り残された地方農村部に対してJICAが実践する人間の安全保障とは。



ヨルダン社会開発省付属の養護施設で活動する杉村由紀子隊員(養護)。施設に通う生徒に音楽を教えている

### ヨ

ルダンというと、中進国で発展しているJICAの協力が必要ないと思われがちですが、そんなことはありません。活気があるのは首都アンマンと一部の大都市だけで、農村部に目を向けると人々の生命を脅かす深刻な問題が潜んでいます。

1946年に独立したヨルダンは、高齢化社会の日本とは反対に、国民の7割以上が30歳以下という若者の国。国民の半数以上は、中東戦争<sup>1</sup>によってイスラエルに占領されたパレスチナから難民として流入してヨルダン国民となった人々とその子孫です。特にイラク戦争後はヨルダンへの投資が集中し、ここ数年の経済成長率は5%以上1人当たりGDP(国内総生産)は2000ドルを超えています。一見順調そうですが、1日1ドル以下で生活する人は3割を占めます。地方の隅々にまで目を向ければ、都市と農村部、就労者と失業者、男性と女性、健常者と障害者など、さまざまな社会的・経済的格差を目の当たりにするので、ヨルダン政府は2005年に国家開発計画「ナシヨナル・アジェンダ」を策定し、これらの格差を是正することで持続的な経済成長を目指しています。JICAも「社会的格差の是正」を重点開発課題に掲げており、経済成長から取り残された地方農村部の人々への協力が、ヨルダンにおける人間の安全保障だと考えています。

具体的な協力としては、まず障害者の自立支援。部落社会が色濃く残る地方農村部では近親親の結婚が多く、障害者の生まれる確率が高いのですが、田舎に行けば行くほどそれを隠す傾向にあります。JICAは87年から、社会開発省が運営する全国の養護施設や障害者分野のNGOに、養護や作業療法士、スポーツ分野の青年海外協力隊を派遣し、障害者の自立を促す支援を続けています。06年度

からは社会開発省に個別専門家を送り、協力隊と連携しながら、これまでの成果を土台に障害者が自立して生活できる体制を地域社会で整えるCBR<sup>2</sup>に取り組んでいます。

また、パレスチナ難民への支援も欠かせませんが、ヨルダン川西岸地区はヨルダンの領土でしたが、67年の第3次中東戦争でイスラエルに奪われ、48年のイスラエル建国時以上にヨルダン川を越えて大量に流入してきたのがパレスチナ難民つまり、彼らはもともとヨルダン国民だったわけ、難民キャンプに暮らすも市民権を持ち、キャンプの外で仕事をしたり、社会サービスを受けることができます。しかし、国全体の失業率が12.5%(04年、15/24歳までは32%)という状況の中で、これといった技術を持たない彼らが職を見つけるのは難しい。女性であればなおさらです。そこで私たちは、キャンプ周辺にある工業団地への就職を視野に、女性への職業訓練を行っています。職業訓練といっても、工場の生産ラインに直接関係する技術の指導だけではなく、工場では行われない基本的な道徳観念の理解を促す訓練に注力しています。働いた経験の少ない彼女たちにとって特に求められるのは、仕事をする上での心構えです。時間を守る、無駄話をしないという基本的な意識や姿勢を育てるため、ワークシヨツプなどを開いて説明しています。そのほか、キャンプ内ですることができる小ビジネス、例えばキノコ栽培などの起業化支援も行っています。

複雑な課題を抱える中東地域において、歴史的・民族的に周辺国とのつながりが深く、また社会的・経済的に欧米や日本との関係を保つヨルダンの安定は、中東和平に不可欠です。ヨルダンの不安定要因である「格差」をいかに是正するか、そのための協力がJICAに求められています。

1 ユダヤ人国家イスラエルと周辺のアラブ国家の間の戦争。1948年のイスラエル独立宣言をきっかけに、73年まで4度にわたって勃発した。イスラエルが占領したヨルダン川西岸地区(当時はヨルダンの領土だった)から大量のパレスチナ難民(ヨルダン国民)がヨルダン川東岸地区に流入したのは、第3次中東戦争。

2 Community-Based Rehabilitationの略。地域に根差したりハビリテーションの意で、障害者の自立生活を地域ぐるみで支えるという考え方。